

# 開かれたサービス

横浜市グループホーム連絡会  
会長 室津 滋樹

ふれあい生活の家と本牧生活の家がある地域には、中区本牧活動ホームがあります。現在主に二つの作業所が日々活動しています。そしてこの活動ホームの事業として、青年生活学級が実施されています。

この青年学級(といっても五十才を過ぎた人もメンバーですが)には、活動ホームとその周辺にある五つの作業所の人たち、あるいは就労していたり、他の通所施設にいらっている人たちが参加し、四つのプログラムがあります。写真部、探険部(余り外出経験がない障害者にとっては市内を歩くのはまさに未知の世界への探険です)、ソフトボールクラブ、そして自立生活プログラムの職員が一人もいない活動ホームの事業として、質、量ともに充実しているのが自慢です。

この青年生活学級ができたのは、一つの作業所のメンバーの希望に一つの作業所では対応できないというところから始まりました。私がかかわる作業所本牧タックでもソフトをやりたいという人は二名、写真を写してみたいという人が二名、親から独立するためにいろいろ覚えたいという人が数名、油絵をやりたいという人が一名、俳句をやりたいという一人一名等々、当たり前ですがやっ

てみたいことは皆ばらばら、とても一つの作業所では対応できません。四、五名希望があった人形劇や体操、外出などは作業所のグループ活動として実施しているのですが、それにも限界があります。

そこで、五つの作業所で集って話し合いを続けました。どの作業所も同様な問題を抱え、また、そこに通所している人たちは、作業所が休みの日曜日をうまく楽しめていないということも共通の課題となってきました。

そして、「二つの作業所が一つのプログラムを担当して、それに誰でも参加できるようにしてみたら」ということになったのです。一つの作業所で大変な思いをしていくつものプログラムを用意するより、五つの作業所が五つのプログラムを用意して、通所している人たちは自由に行き来できるやり方の方が、準備する側の負担もずっと少なく、そして、通所者にとっても多くの人たちとの関わりが増えてきたのです。

これからの地域でのサービスのありかたは、この考え方が必要なのではないのでしょうか。一つの作業所や施設がそのメンバーのために選択肢を増やす努力をし、限りなく大きな組織になっていくことより、一つ一つの作業所や施設が地域に開かれたメニューをつくることの方が障害者にとつての選択ははるかに広がります。「施設福祉から地域福祉へ」このことはサービスの場所が変わることだけでなく、閉ざされたサービスから開かれたサービスへの転換をも迫っているのではないのでしょうか。

# グループホームの安定と

## 周辺サービスの充実を

— 横浜市に要望書を提出 —

八月三十一日、グループホーム

連絡会では平成六年度予算作成に向けての要望書を横浜市に提出しました。A型グループホームより十六名、横浜市からは障害援護課長、育成係長、グループホーム担当者の三名が出席、要望書を手渡して話し合いました。

今年度は「介助型運営基本費助成制度」が新設され、A型グループホームが試行事業から本格実施に移行し、たいへん大きな第一歩をふみだしました。

横浜市のこのような決断を感謝するとともに、地域福祉の充実に向けていっそうの努力をお願いし、要望について説明してきました。

今回は運営費補助の問題だけではなく、長期にわたる安定した運営と、入居者ひとりひとりの生活を支えるサービスの充実を大

きな課題として要望しました。

なかでも長期にわたる安定した運営はA型グループホームの入居者、職員、運営者みんなにとつて、長年の課題であり、乗り越える方法を一生懸命に模索しているところではあります。

小規模で入居者も運営に加わることのできる今のA型グループホームのよさを生かしつつ、運営の不安定さをなくす新しい方法として、同じ地域のいくつかのグループホームが運営を共にし、職員の雇用等、共通する事務についてはまとめておこなう方法を要望いたしました。

この説明の中で、連絡会の側から「グループホームの不安定さを解消する方法として、施設法人のバックアップという安易な方法は求めていない」「A型グループホームが『施設で暮らしたくない』と

いう障害者の声から生まれてきた経過からしても、あくまでも地域単位の新しい形の支援体制を作っていきたい」という意見が出されました。これに対して障害援護課長から「様々な方法を検討していきますましよう」との発言がありました。

最後に、入居者の多様なニーズに答えるには、グループホームの職員数では足りない場合は他制度との連携が必要とあります。

A型グループホームの「介助型運営基本費」の対象者は六十八％、B型グループホームでは十一％です。A型グループホームがいかに重度の障害者の生活を支えているか、この数字からも明らかです。

グループホームを利用して地域の中で生きている重い障害者を持った人の中には制度が改善された今もなお、グループホーム制度だけではやっていけない人もいます。ホームヘルプ制度とグループホーム制度が連携して、重い障害を持つ

た人の生活を支えていけるようにならざるを得ない。早急に制度の改善を行なうよう要望しました。

また入居者ひとりひとりの生活を考えると、通院、買物などを外出時の個別対応が必要となつてきます。ところが知的障害を持つ人たちが、ひとりでの外出がたいへん困難にもかかわらず、ガイドボランティア、ガイドヘルパーの制度がありません。

知的障害者も含めたガイドヘルパー、ガイドボランティア制度の実現を強く要望してきました。

二〇一〇年長期ビジョンに描かれている障害者の地域での暮らしを実現するためにも、横浜市にはいっ歩地域での生活支援体制をつくりあげていただきたいと期待してやみません。



# 活発な入居者部会

## 連絡会第二回総会開かれる

昨年(きょねん)に引き続き今年(ことし)も枚木町(はしきまち)にある健康福祉センター(けんこうふくしセンター)で開かれた「グループホーム連絡会」(ぐーぷほーむれんらくかい)の第二回(だいに)総会(そうかい)。去年(きょねん)とは少し(すこし)総会(そうかい)のやり方(かた)を変(か)えて、第一部(だいいちぶ)、第二部(だいにぶ)にわけました。第一部(だいいちぶ)では、去年(きょねん)この

# 職員ハンドブック紹介



グループホーム連絡会(れんらくかい)は、まちの中で障害者(しょうがいしゃ)が生きていく上(う)で権利(けんり)擁護(ようご)システム(しすたむ)が必要(ひつやう)であること(こと)を訴(う)えてきました。もちろん、障害者(しょうがいしゃ)自身が自己主張(じこしちやう)し、自らの

総会(そうかい)で出来た『入居者部会』(にゅうきょしゃぶかい)『職員部会』(しやくいんぶかい)に別(わか)れ、今年度(ことしねんど)の活動方針(かつどうしんせう)等(らう)について話し合(はな)いをしました。また第二部(だいにぶ)では、連絡会(れんらくかい)会長(かいちょう)の方(かた)から、「私(わたくし)たちが今(いま)まで色んな方(かた)たちで「障害(しょうがい)の重(おも)い人も安心(あんしん)して生活(せいかつ)できるグループホーム制度(せいど)の充実(じゅうせい)を!」と、横浜(よこはま)市(し)に訴(う)えたり、多く(おほく)の人(ひと)たちに私(わたくし)たちの『生活(せいかつ)』を知(し)ってもら(もら)うため、

権利(けんり)を守る力(ちから)をつけていくことが大切(たいせつ)ですが、それが困難(こんなん)な人(ひと)たちの権利(けんり)擁護(ようご)をどうおこなうかが大きな課題(かだい)です。それに応(こた)え、在援協(ざいえんぎょう)は平成(へいせい)二年(に)に市障害者(ししょうがいしゃ)人権調査委員会(じんけんさつさぎいんかい)を設置(せつ)し、二年間(にねんかん)にわたって検討(けんとう)してきました。グループホーム連絡会(れんらくかい)も研究委員会(けんきゅういんかい)に加(か)わり、障害者(しょうがいしゃ)の権利(けんり)を守るため(ため)には何(なに)が必要(ひつやう)かを検討(けんとう)してきました。四年度(よねんど)には、啓発(けいぱつ)とモニター(モニター) (グループホーム(ぐーぷほーむ)など(など)に入居者(にゅうきょしゃ)の権利(けんり)が守(まも)られてい(い)るかどう(どう)か第三者(だいたいさん)が見守(みまも)る仕組(しきぐみ)の実施(じっし)のため(ため)の検討(けんとう)を行(い)い、ま(ま)ず、始(はじ)めら

機関誌(きかんし)・TV等(らう)でPR(ぴあ)してきた事(こと)がやっとわか(わか)ってもら(もら)えました!と喜び(よろこ)のあいさつ(さつ)をはじ(は)じめ、来賓(らいひん)の方(かた)々(々)からも、昨年(きょねん)に増(ま)して力強(ちからづよ)い言葉(ことば)をい(い)ただ(ただ)きました。去年(きょねん)は「総会(そうかい)ってなあ(なあ)に?」など(など)という言葉(ことば)も入居者(にゅうきょしゃ)の人(ひと)たち(たち)から聞(き)こえていた(いた)のがウソ(うそ)のよう(よう)。皆(みな)さんの積極(せきごく)的な姿勢(しせい)に職員(しやくいん)の方(かた)もビックリ(びっくり)していま(いま)した。

れること(こと)から始(は)めよう(よう)という(いう)こと(こと)で、ま(ま)ず、職員(しやくいん)のハンドブック(ハンドブック)がで(で)き(き)上がり(がり)ました。障害者(しょうがいしゃ)の権利(けんり)は、身(み)近(ぢか)な人(ひと)が無(む)意識(いしやく)に侵(か)害(がい)して(して)いる(いる)場(ば)合(あ)が多(おほ)く、グループホーム(ぐーぷほーむ)の職員(しやくいん)も、雑談(ざつだん)の中(なか)で入居所(にゅうきょじょ)のプライバシー(プライバシー)を洩(も)らして(して)いた(いた)り、自(じ)己(ぎ)決(けつ)定(てい)の機(き)会(かい)を奪(うば)っ(っ)て(て)いた(いた)り(り)し(し)ます。ハンドブック(ハンドブック)は障害者(しょうがいしゃ)の人(ひと)権(けん)を守(まも)り、よ(よ)りよ(よ)い援(えん)助(じょ)をお(お)こな(こな)うた(た)めに、援(えん)助(じょ)のあり(あ)りか(か)た(た)、職員(しやくいん)にしてほ(ほ)しいこと(こと)、や(や)っ(っ)て(て)は(は)い(い)け(け)ないこと(こと)、援(えん)助(じょ)の原(げん)則(そく)のQ&A(エー)など(など)、わ(わ)かり(かり)や(や)す(す)く書(か)か(か)れて(て)いま(いま)す。このハンドブック(ハンドブック)作(さ)成(せい)にあ(あ)た(た)っ

入居者(にゅうきょしゃ)の皆(みな)さん、今年度(ことしねんど)も昨(きの)年(ねん)度(ど)どう(どう)よう、一(いち)日(にち)一(いち)日(にち)を楽(たの)しく、そして、一(ひとり)人(り)でも多(おほ)くの人(ひと)たち(たち)に私(わたくし)たちの「生活(せいかつ)」を知(し)ってもら(もら)え(え)る社(しゃ)会(かい)とな(な)るよう(よう)ド(ド)ン(ドン)地(ち)域(い)に(に)出(で)て(て)行(い)き(き)ま(ま)し(し)よう。 (本(ほん)牧(まき)生(せい)活(かつ)の家(いえ) 西(にし)岡(おか)直(なほ)子(こ))



て、グループホーム連絡会(れんらくかい)の入居者部会(にゅうきょしゃぶかい)で職員(しやくいん)にしてほ(ほ)しくな(な)いこと(こと)、職員(しやくいん)に希(き)望(ぼう)する(する)こと(こと)など(など)の意(い)見(けん)をま(ま)とめ、ハンドブック(ハンドブック)編(へん)集(じゅう)グ(グ)ル(ル)ープ(ープ)に提(てい)起(き)し(し)ま(ま)した。入居者(にゅうきょしゃ)の声(こゑ)を中(ちゆう)心(しん)に、作(さ)業(ぎょう)所(じょ)、グ(グ)ル(ル)ープ(ープ)ホ(ホ)ーム(ーム)関(かん)係(けい)者(しゃ)が多(た)数(すう)参(さん)加(か)し(し)て(て)作(さ)ら(ら)れた(た)こと(こと)に(に)この(この)ハ(ハ)ン(ン)ド(ド)ブ(ブ)ック(ック)の特(とく)徴(ていしやう)が(が)あ(あ)り(り)ま(ま)す。しかし、総論(そうろん)的(てき)で具(ぐ)体(たい)的(てき)にど(ど)う(う)すべ(べ)き(き)か(か)書(か)か(か)れて(て)い(い)ない(ない)こと(こと)など(など)未(み)完(かん)成(せい)な(な)点(てん)も多(おほ)く、これ(これ)か(か)ら(ら)も(も)様(さま)々(々)な(な)議(ぎ)論(ろん)を(を)通(つう)じて(じて)ハ(ハ)ン(ン)ド(ド)ブ(ブ)ック(ック)を(を)作(さ)り(り)上(じやう)げ(げ)て(て)い(い)く(く)こ(こ)と(と)が(が)必(ひつ)要(やう)で(で)す。

マイペースで... カンガルー、西さん  
ラポールへ ひとりて  
水泳に います。

グループで... 本牧、西岡さん  
グループを つくって  
ラポールへ 水泳に  
います。

やまゆり-岩崎さん  
喫茶店で  
お手伝い しています

何か やりたい人  
仲間を さがしている人へ  
まずは、近くの 青年学校

休日は 充実 しています... やまゆり、上野さん  
鎌倉彫  
活動ホームの 写真クラブ、探検クラブ  
ソフトボールクラブ などなど...

# あなたは 休日や仕事後の時間と どうすごして いますか?

私も 鎌倉彫... 友の家、南部さん  
やりたくて、近所の 看板をみて、先生のところへ  
直接 たのみにいき、月2回、教えてもらっています。  
4000円の 月謝 + 材料費は もちろん 自腹。  
他に、体操クラブ、青年学校 ハロー など...

ダンボ、山根さん  
キーボードで 楽しんでます。

地域の人も いっしょに  
一友の家 体操クラブ  
毎週水曜夜、エアロビクスの  
先生と べっちり 2時間、汗を  
かきます。おこづかいから  
月謝を出し合って...

私たちも 活動ホームのクラブに行ってます  
本牧、板垣さん、桑原さん — ソフトボールクラブ  
ふれあい、沢本さん、三谷さん — 写真クラブ

この他にも、並木住宅支援センターの「夜間飛行」など、や

中区 中区本牧活動ホーム  
青年学校  
問い合わせ 623-3727  
本牧活動ホーム

港南区 港南福祉ホーム  
成人学校  
問い合わせ 831-9441  
港南福祉ホーム

みどり区 みどり福祉ホーム  
青年学校  
問い合わせ 984-0657  
みどり福祉ホーム  
担当: 大久保

神奈川区 神奈川区福祉活動ホーム  
青年学校  
問い合わせ 434-3748

鶴見区 障害者地域活動ホーム  
もみや、青年学校  
問い合わせ 584-0066



# シリーズ まちの中で

—まちの人たちとのページ—

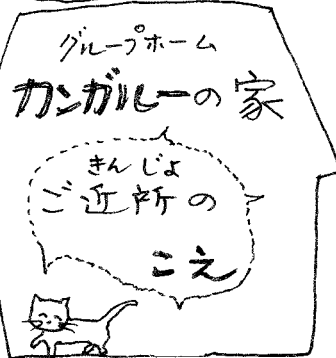


特別扱いはいたしません  
が、みんなが  
するおなじい人  
たちです



夕方になると、よく音楽が  
きこえて  
きます。みんな明るくて  
よい人たちが、楽しく  
すごしているよう  
いいですね。

私の店の近くにカンガリーの店があります。写真撮影に見えたとき、また、DPEを受け取ったとき、必ず大笑いして、おどろかして、みんな感じがよい。青年たちとも思っています。どんなことにも負けずに、フアイト、フアイト……  
またあそびに来てください。



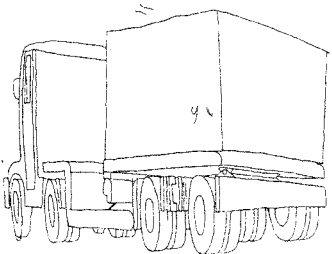
## いろいろ教えられています

二人三脚の家 早朝ハート  
松本 はる子

グループホームのすぐ近くに暮らしている主婦です。朝の七時から十時まで、障害者の介助や掃除など手伝って下さいという、パート募集の張り紙がある日みつめました。この時間は主婦にとっては厳しい時間です。やってみようか子供たちに相談しました。子供たちが出かける時の声かけが出来ないことが気がかりだったので。

高二の長男が「おばあちゃんのためにもなるんじゃない」という意見で決めました。私の母は、重度の痴呆症です。ホームの皆さんとの関わりによって私の母への対応の仕方もわかりました。母を障害者として認められるようになると、世話をするにも距離をおくことができるようになりました。今置かれた自分の立場を外から見ることができてよかったです。

ホームで生活されている方々は、とてもやさしい人達です。言葉、動きは不自由でも、お互いを思いやり、労わりながらの生活に、教えられます。今ホームで生活できる方たちは幸せだと思います。本人にとっても家族にとっても安心して暮らせるグループホームが数多くできればよいと思います。今日が元気にすごせ、この元気が明日に続くように祈りながら、そして私もいつまでもお手伝いを続けられたらなと願っています。



上野 英雄 画

# あたら 新しいグループホームです、よろしく！

## グループホーム今人です (神奈川区)

名前とはふしぎなものである。「いまじん」or「イマジン」or「今人」にするか、迷った。他の人が漢字がいいと言うことで「今人」に決定した。日常的に使っていると妙に名前になじんできて、漢字にして良かったと思う。

今人の由来は、ビートルズのメンバー、今は亡きジョン・レノンの2枚目のソロ・アルバムのタイトルが「イマジン」なのです。

今人は、作業所を母体にせず、5人のメンバーがそれぞれの所へ通っています。その点で友の家とよく似たグループホームではないでしょうか。

(「青春時代をビートルズで過ごした」  
「今人」の小河原)

## しらね 白根ハイツをよろしく (旭区)

白根ハイツに入居されている方は、女性2名、男性3名の計5名の方です。職員は女性2名が交代で勤務しています。

日中、入居者の方は授産施設である空とぶくじら社で仕事をして、夜は白根ハイツにて共に生活をしています。くじら社が休みの日には、友達と出掛けたり、実家に戻られたり、白根ハイツで寛いだりと、皆さんがそれぞれの生活をしています。(川口)

H.Hさん(男性)の声 → 掃除や洗濯などを自分でしなくてはならなくなったけど、  
実家にいた頃よりも、自分自身の自由な時間がもてるようになった。



## げ 下宿屋です (磯子区)

JR根岸駅から歩いて10分ほどのところにグループホーム「下宿屋」があります。入居者は男性4人です(気持ち悪いなあ)。職員2人を含め、和気あいあいにやっています。

何か問題が生じた場合は、いつも4人で話し合い、問題解決の道を探しています。

## 各グループホームを訪問して

西岡 直子

宮沢賢治の詩「雨にも負けず風にも負けず」ではありませんが、

今回はじめて、各グループホームをインタビュして回って一言。(心のそこから)「寒かった〜!」

一年のうちで一番寒さがきびしい時期の一月中旬から二月初めにかけて回った十か所のグループホーム。最初、この企画を「私に〜」という話が出た時は「ま、まさか〜!」とホッペタにたてせんが入ってしまふような思いでしたが、いざ、各ホームにおじゃましてみると、夕食のいいにおいと皆さんの明るい笑顔で外の耳のちぎれるような寒さがウソのような暖かさ。

でも、これでホッペタのたてせんが消える訳ではありません。だいたい、入居者の皆さんとは年に一回の新年会で顔を合わすか合わさないかというくらいしか接したことのない私です。その私が、

いきなり夕食時におじゃまして私の言うコトバをわかってもらえるだろうか。わからないコトバで「あなたのゆめは？」とマイクを向けたところで本当に答えてくれるだろうか。しかし、行ってみたらなんのその。勿論初めのうちは「キョトン」としている人もいましたが、夕食が終わり皆でお茶を飲む頃には私は皆の人気者!(ちよっと言い過ぎかしら?)でも、今回はじめて各グループホームを回ってみて感じたことは「の〜んびりとしているなあ〜」という事。夕食が終わっても誰一人席を立とうとせず、の〜んびりとお茶を飲む姿が印象的でした。

『生活』はの〜んびりしなくちゃね! あらためまして入居者の皆さん、一日の中で一番くつろいでる時間にイヤな顔一つせずインタビューにこたえてくれてありがとうございます。又、職員の皆さんも忙しい中ありがとうございます。

### 協力会員募集!

まちの中でくらししている障害者の姿や声をお届けする機関紙「まちの中で」を発行しつづけるために、ご支援をお願いいたします。

会費(年) 1口 2000円

振替… 横浜 8-73608  
横浜市グループホーム連絡会

☆協力会員になっていた方には機関紙をお送りいたします。

### 基金づくりにご協力を!

グループホーム運営支援基金のためにみなさまのお手元でねびっている未使用のテレフォンカード、オレンジカード、ビール券、商品券などのご寄付をお願いします。

送り先・横浜市グループホーム連絡会 事務局

〒231 横浜市中区本牧満坂10  
本牧生活の家 045-623-5318

### 秋! バザー!

10月31日(日) 友の家バザー

お問い合わせ 045-774-9242  
(友の家)

11月7日(日) くじらまつり

お問い合わせ 045-382-1002  
(くじら社)

11月23日(祭) ダンボふれあひバザー

お問い合わせ 045-333-5990  
(作業所ダンボ)

アトラクションも  
あるよ

地域ぐるみの  
おまつりで、  
それには  
まちが

### ほ・しゅ・う

いっしょに銭湯に

はいて下さる方

- ・男性
- ・週1回

お問い合わせ...

やまゆり  
045-262-5795

ありがとうございました。(敬称略 順不同)

【寄付金】 友の家親の会、加藤恵美子、宮坂栄子、玉井きみ江、黒羽知代

【テレフォンカード】 間宮孝治、今井知子、高久教男、市原金子、岩屋文夫、すみなす会、玉井きみ江、安藤美佳、片山育子、上野敬子、今井由美子、西美枝子、藤尾孝枝、成田すみれ、田中文夫、奥本民代、矢沢澄子、矢野公代、錦戸系子、西岡直子

大高 智子、福田進、栗田桐花、牧篤子、桑原玲子、

田中系純香、山田博子、手塚敬子、杉原“光”子。

☆協力会員は現在までに40名の申し込みをいただいています。紙面の都合で次号にお名前をお書きします。

**編集後記** 今号の発行がすっきりおくれ、秋風の立つ頃となくなってしまいました。ごめんなさい。皆さんのご意見や投稿をお待ちしています。(I)

発行人 神奈川県障害者団体定期刊行物協会  
横浜市港北区鳥山町1752  
横浜ラポール3F

編集人 横浜市グループホーム連絡会  
横浜市中区本牧満坂10本牧生活の家  
TEL 045(623)5318  
FAX 045(623)5319  
郵便振込番号 横浜 8-73608  
名称 横浜グループホーム連絡会

編集責任者 室津 滋樹  
定 価 100円